
MACF礼拝説教要旨

2023年12月10日

「救い主への待望と礼拝の心」

ルカによる福音書2章

8その地方で羊飼いたちが野宿をしながら、夜通し羊の群れの番をしていた。

9すると、主の天使が近づき、主の栄光が周りを照らしたので、彼らは非常に恐れた。 10天使は言った。「恐れるな。わたしは、民全体に与えられる大きな喜びを告げる。 11今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。 12あなたがたは、布にくるまって飼葉桶の中に寝ている乳飲み子を見つけるであろう。これがあなたがたへのしるしである。」 13すると、突然、この天使に天の大軍が加わり、神を賛美して言った。

14「いと高きところには栄光、神にあれ、

地には平和、御心に適う人にあれ。」 15天使たちが離れて天に去ったとき、羊飼

いたちは、「さあ、ベツレヘムへ行こう。主が知らせてくださったその出来

事を見ようではないか」と話し合った。 16そして急いで行って、マリアとヨセフ、また飼い葉桶に寝かせてある乳飲み子を探し当てた。 17その光景を見て、羊飼いたちは、この幼子について天使が話してくれたことを人々に知らせた。 18聞いた者は皆、羊飼いたちの話をも不思議に思った。 19しかし、マリアはこれらの出来事をすべて心に納めて、思い巡らしていた。 20羊飼いたちは、見聞きしたことがすべて天使の話したとおりだったので、神をあがめ、賛美しながら帰って行った。

マタイによる福音書2章

1イエスは、ヘロデ王の時代にユダヤのベツレヘムでお生まれになった。そのとき、占星術の学者たちが東の方からエルサレムに来て、 2言った。「ユダヤ人の王としてお生まれになった方は、どこにおられますか。わたしたちは東方でその方の星を見たので、拝みに来たのです。」 3これを聞いて、ヘロデ王は不安を抱いた。エルサレムの人々も皆、同様であった。 4王は民の祭司長たちや律法学者たちを皆集めて、メシアはどこに生まれることになっているのかと問いただした。 5彼らは言った。「ユダヤのベツレヘムです。預言者がこう書いています。

6『ユダの地、ベツレヘムよ、お前はユダの指導者たちの中で決していちばん小さいものではない。

お前から指導者が現れ、わたしの民イスラエルの牧者となるからである。』」

7そこで、ヘロデは占星術の学者たちをひそかに呼び寄せ、星の現れた時期を確かめた。8そして、「行って、その子のことを詳しく調べ、見つかったら知らせてくれ。わたしも行って拝もう」と言ってベツレヘムへ送り出した。9彼らが王の言葉を聞いて出かけると、東方で見た星が先立って進み、ついに幼子のいる場所の上に止まった。10学者たちはその星を見て喜びにあふれた。11家に入ってみると、幼子は母マリアと共におられた。彼らはひれ伏して幼子を拝み、宝の箱を開けて、黄金、乳香、没薬を贈り物として献げた。12ところが、「ヘロデのところへ帰るな」と夢でお告げがあったので、別の道を通って自分たちの国へ帰って行った。

＊ ＊

13占星術の学者たちが帰って行くと、主の天使が夢でヨセフに現れて言った。「起きて、子供とその母親を連れて、エジプトに逃げ、わたしが告げるまで、そこにとどまっていなさい。ヘロデが、この子を探し出して殺そうとしている。」14ヨセフは起きて、夜のうちに幼子とその母を連れてエジプトへ去り、15ヘロデが死ぬまでそこにいた。それは、「わたしは、エジプトからわたしの子を呼び出した」と、主が預言者を通して言われていたことが実現するためであった。

16さて、ヘロデは占星術の学者たちにだまされたと知って、大いに怒っ

た。そして、人を送り、学者たちに確かめておいた時期に基づいて、ベツレヘムとその周辺一帯にいた二歳以下の男の子を、一人残らず殺させた。

@@@@@

福音書に書かれているクリスマスの物語には「信仰者の姿」が表現されています。

マリアは天使の告知を信じ、ヨセフは夢で知らされたお告げを信じました。羊飼いたちは野原で見た天使からのお告げを信じ、さらに東の国からやってきた博士たちは星による導きを信じました。彼らは見て、聞いて、信じ、出かけました。そして探し当て、喜び、礼拝したのです。

シメオンという人もエルサレムの神殿で救い主がやってくるのを待ち焦がれていました。

ルカによる福音書2章

25そのとき、エルサレムにシメオンという人がいた。この人は正しい人で信仰があつく、イスラエルの慰められるのを待ち望み、聖霊が彼にとどまっていた。 26そして、主が遣わすメシアに会うまでは決して死なない、とのお告げを聖霊から受けていた。 27シメオンが“霊”に導かれて神殿の境内に入ってきたとき、両親は、幼子のために律法の規定どおりにいけにえを献げようとして、イエスを連れて来た。 28シメオンは幼子を腕に抱き、神をたたえて言った。

29「主よ、今こそあなたは、お言葉どおり この僕を安らかに去らせてくださいます。

30わたしはこの目であなたの救いを見たからです。

31これは万民のために整えてくださった救いで、

32異邦人を照らす啓示の光、あなたの民イスラエルの誉れです。」

これらの姿勢こそ、救い主イエス様を迎えるのにふさわしいものなのだと教えてくれています。

ようです。

神様からの言葉を聞き、信じて、行動し礼拝するという形です。

ところが、王であるヘロデは違いました。

ヘロデは見て聞いて、殺そうと思ったからです。

ヘロデ王は宗教指導者から救い主の誕生について説明を受け、ベツレヘムで生まれることを知らされてきました。救い主に関する歴史的な預言やその内容について教えられていたはずですが、ところが、ヘロデ王は「自分の王位を危うくするかもしれない」という疑念をイエス様に向け、その周辺で生まれた幼子を虐殺したのです。イエス様とヨセフとマリアは危うくのところでエジプトに逃げました。

前にあげたヨセフや羊飼、東の国博士とヘロデ王の心の何が、どこが違うのでしょうか。

羊飼、東の国の博士たち、シメオンは「救い主に会いたい」、「礼拝したい」という謙遜さがありました。同時に、自分には救い主が必要だということを知っていました。

ヘロデ王は自らを偉大な王、神と並ぶ存在のようなところに身を置いていて自分には救い主は必要ではないと考えていたのかもしれませんが。

そして、自分の威光を妨げるような存在は殺し、なきものにするという考えをヘロデは持っていました。つまり、自らが常に「王」であり「中心」であり「崇められるべき存在」「神に近い存在」と信じていたのです。

羊飼いは本物の羊飼である救い主に会おうと夜遅かったにもかかわらず、何キロも歩いて救い主を探し当てました。占星術師たちは、星さえもコントロールする偉大なお方にあつて礼拝しようとしてそれこそ長い旅をしてきたのです。

彼らは純粋な心で救い主に会いたいと思い、行動したのです。信仰における純粋さは「謙遜さ」と連動しています。自分には「助け」が必要であり、神様、救い主の同伴が自分の人生には必要だと知っていました。

ヘロデには征服欲と保身、そして神への不遜な態度と心があり、神様にも人にも横柄に接していました。

礼拝者の心、それは信仰者の心、そして、それは私たちを「謙遜な生き方」へと導きます。クリスマスとはイエス様に対する歓迎の心と礼拝の心を表明するために用意されたと言っても良いかもしれません。

ギタリストのジミーヘンドリックスがこんな言葉を残しています。名言です。

When the power of Love overcomes the Love of power.the world will know peace!

「愛の力」が「力（権力）の愛」に打ち勝った時、世界は平和を知ることになるだろう。

羊飼いや東方の博士たちの信仰と行動がヘロデ王の行動よりも遥かに高く評価される世界になったとき、そこには平和の光が灯るはずです。

イエス様の愛の力を知り、イエス様への愛の力を蓄えつつ、クリスマスに向けて心を整えましょう。

Youtubeでの「MACF礼拝」はこちらです。

<https://youtu.be/n7xYnAB4TRI>